

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500696
法人名	有限会社 ケア・ポート ヒロタ
事業所名	グループホーム サルビア
所在地	福岡県宮若市宮田41-5 (電話)0949-32-1300

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月27日

【情報提供項目より】(20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	11人, 非常勤 8人, 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	16,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	550円	おやつ 100円

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

登録人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.8歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安倍医院、原三信病院、中村病院、ひろた消化器内科クリニック、大林歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から2年8ヶ月を経過したグループホームサルビアは、頻繁に人や車の往来がある商店街に面する二階建て二ユニットのグループホームである。管理者の親族が地元出身でもあり、自治会・商工会にも加入し地域との信頼関係だけではなく、最近では近隣住民が自主的にボランティアとして訪問するなど馴染みの関係も構築しつつある。家庭的な環境の中で、協力医療機関との連携や管理者の親族である医師の協力などで医療面のバックアップが充実しており、入居者や家族に安心・安全を提供している。また、栄養士、歯科衛生士、看護師など多職種の職員がそれぞれの専門分野を活かしながら、ケアを展開しており、口腔ケアを地道に実施することで入居者が風邪や肺炎に罹患しなくなったことは大きく評価できる。管理者は勤務時間内で研修参加を支援することで介護従事者を育成したり、社会保険の整備で介護労働事業所としての基盤を整備している。職員は、資格取得など目的を持って介護職に就労し生き生きと入居者と関わっている。そして、市内のグループホーム11事業所と相互の情報交換や研鑽の場として「GHみやわか」を発足し、協同で福祉祭りに出店したり、AEDの取り扱いかたや救命処置の研修会を開催するなど包括的に地域密着型サービスの向上を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の見直し、入居者への権利擁護や成年後見制度の説明など改善シートのすべての項目に具体的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は外部評価の意義を理解し、自己評価は各ユニットで取り組み、職員全員で自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に関する規定を整備し、記録も整備されている。2ヶ月ごとに適切なメンバーで開催し外部評価結果の報告や状況報告、緊急時の医療機関への搬送処置についての取り決めや事故対策について話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	3ヶ月ごとのホーム便りで行事やホームの状況を知らせている。日々の暮らしぶりや職員異動などの報告は、誕生会、敬老会などの行事の際や家族の訪問時に行っている。金銭出納簿は毎月家族にホーム便りと一緒に郵送し、訪問時確認印をもらっている。成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットの整備し、入居初期に説明をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市内のグループホーム11事業所で発足している「GHみやわか」で協同して福祉祭りの運営に関わり、認知症地域密着サービスとしての啓発を呼びかけている。町内会への参加、祭りの出店など積極的に地域行事に参加している。住民が自主的にボランティアで訪れたり、ホームの連絡網に隣人住民の電話番号も記載するようになった。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書、契約書に地域密着型サービスの方針として「地域との交流の下・・・」を記載し、ホーム理念を「住み慣れた地域の中でこちよく暮らせるグループホームを目指します。家庭的な雰囲気の中、我が家のように和やかに暮らせるようにお手伝いをします」に見直している。理念は玄関の見えやすいところに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念をミーティング・会議など機会あるごとに話している。職員一人一人が普段から理念に目が触れるように小型のカード方式で常時携帯することで、地域の住民への声かけなどで実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者の親族が地元出身でもあり、自治会・商工会にも加入しており、地域の住人との信頼関係が築けているが、盆踊りや祭りに積極的に参加することで交流を深めている。最近ではボランティアとして地域住民の関わりがあり、ホームの連絡網に隣人の電話番号も記載するようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員が意見を出せるように各ユニットごとに取り組んでいる。前回の外部評価結果を活かし、地域密着型サービスとしての理念の見直しやチームで取り組む介護計画に入居者の故郷訪問を組み入れるなど、改善に向けて具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程を整備し、議事録も整備されている。適切なメンバーで外部評価結果の報告や定期的な状況報告、サービス内容の検討、緊急時の医療機関への搬送処置についての取り決め、事故対策など具体的に話し合っている。今年から元民生委員で母子会の方の参加もあり、地域安全について話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム11事業所と「GHみやわか」を発足し、市職員も研修会や福祉祭りに参加し交流している。	○	長年の口腔ケアの結果として、肺炎や感冒の予防が出来ることを介護予防として情報提供してみてはいかがでしょうか。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットを整備している。入居初期に成年後見制度について説明をしている。今年は機会を逸して、研修会への参加ができなかった。	○	GHみやわかを活用し定期的に研修会を行い、地域のホームで権利擁護に関する制度の理解と活用が促進されることを期待します。
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月ごとのホーム便りで行事やホームの状況を知らせている。日々の暮らしぶりや職員異動などの報告は、誕生会、敬老会などの行事の際や家族の訪問時に行っている。金銭出納簿は毎月家族にホーム便りと一緒に郵送し、訪問時確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に二回家族会を行い、意見交換をしている。ホーム内に目安箱を設置しているが、投書はない。運営推進会議で家族の意見が多く得られるように、家族の参加が交代で行われている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を出さないように、職員と日ごろから話し合うようにしている。入居者にストレスが生じないように数ヶ月に一回職員の異動を行い、入居者職員と馴染みの関係を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用は老若男女の区別はなく、ハローワークや職員の紹介で採用している。採用時初回の面談は管理者が行わず、「一緒に働くものの視点から」採用面談を行えるよう現場従事者が行っている。雇用契約書・服務規程・就業規則など整備されている。研修会には参加できる様に勤務を調整している。職員の休憩場所が確保されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	行政主催の人権問題地域懇談会に参加し、人権教育・啓発に取り組んでいる。人権パンフレット、身体拘束虐待防止マニュアルも整備されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県グループホーム協議会主催の研修やGHみやわかの研修会が隔月に行われており、勤務時間内に参加できる様調整している。新任・常勤の年間研修計画も立てられており、計画的に人材育成に取り組んでいる。事務長や介護支援専門員が職員の悩みごとの相談を受けている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入し、Fブロックの研修会などに参加している。また市内11ヶ所のグループホームで「GHみやわか」を発足し、意見や情報交換ができる研鑽の場を設け、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望がある場合は管理者や介護支援専門員が自宅や入院先に訪問したり、家族と一緒に見学をしていただき安心して入居していただける様に支援している。体験入居の仕組みもある。入居時は情報を多く収集し、安心して入居できる様に関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の昔の苦労話や子育ての話に新鮮さを感じたり、日々のテレビでの懐メロや時代劇などに興味を持つようになり、生活の中でバリエーションが広がり楽しみが増えたと感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には本人にとってどのように暮らすことが最良なのか、行きたい場所、衣・食・住や趣味など家族を交えて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を聞き取り、健康状態や生活歴・生活習慣を配慮し、看護師や歯科衛生士、栄養士、介護福祉士など多職種共同で検討し、介護計画を作成している。担当者会議に家族が参加しており計画書に入居者、家族の署名捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごと、また入居者の状態像が変化したときに見直しが行われている。本人、家族の意向も取り入れ職員と話し合いながら計画を見直している。見直しの後、介護計画書第一表の書き直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の里帰り訪問で自宅の柿ちぎりと一緒にしたり、墓参りや寺院の訪問など行っている。入院した入居者のお見舞いに遠方に住んでいる家族の代わりに出かけ、状況を家族に報告したりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診は、主治医からの説明が家族に直接行われるように、家族に受診同行をお願いしている。訪問診療は月2回行われ、毎日曜日に管理者の親族の医師が来所し、相談に応じている。協力医療機関の受診記録を整備し、検査結果を家族へ郵送している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を整備し、入居時に説明し記録も整備している。独自の緊急時の医療機関への搬送、処置についての取り決めを作成している。管理者の親族である医師や職員の看護師と24時間連絡がとれるので、助言・相談等で情報を共有できているが、看取りはまだない。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護の方針を掲示し、個人情報の利用目的について入居者や家族に説明し同意を得ている。法令順守の研修や人権の尊重に関する研修に参加している。入居者の尊厳に配慮した丁寧な言葉かけや対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や就寝時間、食事の時間などは個別に対応するようにしている。一人ひとりの体調に配慮しながら、買物や散歩など対応している。食事は一緒に開始し、他の入居者が終わるまで下膳を待つ事が、日常の生活習慣の一環として行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前の職業経験を活かして、生き生きとして配膳を行っている入居者もいる。食事の下ごしらえや食器洗い、茶碗拭きなどできる事を協力しながら行っている。入居者の希望メニューも取り入れ、職員も共に食事を楽しむようにしている。管理者が季節の食材を調達して、食事を通じて四季が楽しめるように配慮している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があれば、午前・午後入浴は自由である。夕方入浴する入居者や夜間毎日見守り程度で半身浴を行っている入居者もいる。入浴を拒否する入居者には、無理強いをせずに着替えを手伝うアプローチを行ったりして、工夫したり清拭や足よくなど支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴や生活歴をアセスメントし、日々の役割や楽しみが引き出せるようにカラオケや裁縫、習字など個別に対応をしている。踊りの腕前を披露できる機会を設けている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間レクリエーション計画があり、日ごろからホーム近くの神社への散歩やファミリーレストランに出かけたり、大型スーパーに数人ずつで出かけたり、古くから馴染み商店街の呉服屋さんに出かけたり、四季折々に花見に出かけている		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	商店街に位置し頻繁に人や車の往来があるので、各階の出入りにセンサーの取り付けを行い、人の出入りが音で職員に分かるようにしている。防災用写真入りアルバムと行方不明者検索マニュアルを作っている。保安のため、20時から翌朝6時は施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時(地震・水害・台風・火災)マニュアル、緊急時連絡一覧表、消火器の設置、緊急時備蓄の整備があり、消防訓練も実施している。近隣の交番の巡視も行われている。今年GH みやわかでAEDの使い方など救急処置の研修会に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一日の摂取カロリーを考え、献立を立てている。嚥下や咀嚼にあわせてキザミにしたり、スプーンやフォークを利用しなるべく自分で食事を取るよう工夫している。一日の水分量も定時で摂取する以外は記録している。月初め、入浴時に体重測定を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な玄関から共用空間の壁は明るい色調に統一され、観葉植物や生花が生けてあったり、季節に合った調度品が飾られており、採光の調整や窓の開閉もこまめに行われている。共用空間の対面式台所から茶碗を洗う音やご飯の炊ける匂いが漂っている。入居者が多くの時間を過ごす共用空間は、テレビ・ソファや畳の上がり座敷があり、心地よい音楽が流れるなど居心地良く安心して過ごせる安らぎのある場所となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや椅子以外にも仏壇や鏡台などが持ちこまれており、孫やひ孫が写っている家族の写真が飾られ、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。入居者の申し出があれば畳も利用できる様に準備している。		